



2026年4月14日

各位

会社名 フォルシア株式会社

代表者名 代表取締役社長 屋代 浩子  
(コード番号：304A 東証グロース市場)

### 2026年2月期 業績予想と決算値との差異に関するお知らせ

当社は、2025年4月14日に公表いたしました2026年2月期（2025年3月1日～2026年2月28日）の業績予想と比較して、本日公表の決算において下記のとおり差異が生じたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2026年2月期の業績予想値と決算値との差異（2025年3月1日～2026年2月28日）

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	2,492	249	249	171	139.56
決算値 (B)	2,197	71	74	48	39.55
増減額 (B-A)	△ 295	△ 178	△ 175	△ 123	—
増減率 (%)	△ 11.8	△ 71.4	△ 70.2	△ 71.7	—
(参考) 前期実績 (2025年2月期)	2,310	215	198	131	126.72

#### 2. 差異の理由

当社では、当事業年度末時点において通期業績見通しで想定する売上を達成する水準での決算数値の取りまとめを行いました。その後の監査の過程で収益認識に関する要件の適用について改めて監査法人と協議を行った結果、当事業年度における一部大型案件の進捗に応じた売上につき、翌事業年度に顧客が検収した時点で計上することが適切であるとの結論に至りました。

上記の影響により、2026年2月期の売上高につきましては、期初の業績予想を下回る結果となりました。なお、当該案件は当事業年度中に受注及び契約締結が完了しており、案件自体の進捗に変更はありません。

利益面につきましては、第3四半期にご説明したとおり、当該大型案件の開発着手を見据えて期中より開発体制の拡充を進めていたことに加え、プロダクトの品質向上や中期的な収益基盤の拡大に向けた新機能開発等の先行的な取り組みを継続的に進めていたことが、売上原価を押し上げる主な要因となりました。これらの費用は、本事業年度の売上計

上と対応する形で回収することを見込んでおりましたが、前述のとおり売上の計上が翌事業年度に行われることとなったため、当事業年度の利益減少として表れる構造となりました。

以上の結果、当事業年度の業績は、売上高は 2,197 百万円（前年同期比 4.9%減）、営業利益は 71 百万円（同 66.8%減）、経常利益は 74 百万円（同 62.5%減）、当期純利益は 48 百万円（同 63.0%減）となりました。

今回の対応は収益認識に関する要件の適用について慎重に見直しを行った結果によるものです。当社は引き続きプロジェクト推進力及びプロダクト競争力の強化を通じた中長期的な成長の実現とともに、業績見通しの精度向上に努めてまいります。

詳細については、「2026 年 2 月期 通期決算説明資料」をご確認ください。

<https://www.forcia.com/ir/library/presentations/>

以 上